

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人マナーズ

代表者・役職名 氏名 自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」ホーム長 森健太郎

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

トイレの老朽化に伴う改修事業 「寒い冬にも暖かいトイレに」

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当法人は平成21年に法人を設立し、ボランティアで身寄りのない子供たちをサポートして来ました。その事業を受けて平成25年4月からは、養育者の不在、もしくは家庭にいないことのできない青少年に健全で安心な生活の場を提供する施設「自立援助ホーム」を開設いたしました。現在では「こども食堂」を活動に加えて、包括的なこども支援を行なっています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」で職員、入居者が使用している建物の老朽化が進み、洗面所・トイレの改修は早急に行わなければならないほどの状況でした。特にトイレの便座の故障がひどく、暖房器具などは全く使えない状態であり、床も水分を含み腐っている状況でした。そのため早期の修繕を計画しなければなりません。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

一階は暖房便座付きでしたが、当初から故障していたため使用ができませんでした。二階のトイレは普通便座だったので、両便座の取り替えを行いました。それに伴い床と壁紙の張替えを行い入居者が快適に使えるようなトイレに改修を行いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

以前より入居者からのトイレの故障に対する不満はよく上がっていましたが、今回の改修工事により、入居者の満足のいくトイレに生まれ変わりました。これによって冬でもトイレを快適に使用することができ、入居者の暮らしやすい環境にまた一つ近づけたことを実感しております。また掃除などの手入れもしやすいため、職員の負担が大幅に減りました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

自立援助ホームとして現在使用している建物の老朽化に伴う改修事業は、今回のトイレの入れ替えによって大幅に目標の達成に近づきました。現在もキッチンやリビングなどの修繕の必要などところが多くありますが、少しずつ計画を立てて実行し、入居者が安心して落ち着いて暮らすことができる環境の整備に努めたいと思います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

特になし